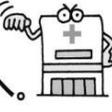


かぜとインフルエンザの違いについて

徹底比較		かぜ	VS	インフルエンザ	
原因	<ul style="list-style-type: none"> ●かぜウイルス ・200種類以上あり、一度に複数のウイルスが感染することも。 ・予防のためのワクチンはない。 ・感染力はあまり強くない。 			<ul style="list-style-type: none"> ●インフルエンザウイルス ・A型、B型、C型の3種類があり、特にA型は大流行を起こしやすい。 ・その年に流行する型を予想して、ワクチンが作られる。 ・感染力は強い。 	
症状	<ul style="list-style-type: none"> ●鼻水、くしゃみ、せき、のどの痛み、軽い発熱 ・鼻やのどから、じわじわと症状が進む。 			<ul style="list-style-type: none"> ●38℃以上の高熱、頭痛、筋肉痛・関節痛 ・全身に、激しい症状が突然起こる。 ・脳炎や肺炎など、重い合併症を起こすことがある。 	
かかったら	<ul style="list-style-type: none"> ●早めに休養をとる。 ・数日たってもよくならないとき、症状が重くなってきたときは、病院へ。 		<ul style="list-style-type: none"> ●たっぷり睡眠をとる。 ・眠っている間に、免疫力を高めるリンパ球がつけられます。 ●水分補給をする。 ・少しずつ、こまめに。 		<ul style="list-style-type: none"> ●症状が現れたら、なるべく早く病院へ。 ・インフルエンザと診断されたら、出席停止
予防するには	<ul style="list-style-type: none"> ●手洗い・うがいをこまめにする。 ・うがいは、のどに湿り気を与え、ウイルスの増殖をおさえる効果も。 ●室内の湿度を50%以上に保つ。 ・ウイルスは、湿度の高いところが苦手。 ●休養・栄養をじゅうぶんに。 ・病気への抵抗力、ウイルスと戦う免疫力を高める。 			<ul style="list-style-type: none"> ●予防接種を受ける。 ・接種後、免疫ができるまで4週間ぐらいかかるので、必要な人は、早めに医師に相談する。 ●流行期には、なるべく人ごみに出かけない。 	

【質問】

発症後、インフルエンザを検査する適切なタイミングは？

【回答】

一般的に検査キットの陽性率は、発症後0～12時間で70～80%、13～24時間で70～90%とされています。従って12時間以上経過すればキットで検知できるウイルス量が得られる確率が高く、抗インフルエンザウイルス薬の投与が発症から48時間以内であることを考慮すると、検査のタイミングは発症後12時間から48時間の間が最適と考えられています。

【参考文献】

日本臨床検査自動化学会第3回POCセミナー十校委員会、機器・試薬、28(6)、494(2005)